

大地の恵み

blessing of the earth

「共に語ろう! あきたの水環境」

地球人フォーラム 2002



田園空間博物館整備事業(白神郷、亀田藩、鳥海山麓)

農作業体験イベント「みんなで“いも”作り」

県内産直情報(その3)

21世紀土地改良区創造運動



あきた
食料・環境・ふるさとを考える地球人会議



コ-ディネ-タ-
穴戸 豊和
 秋田魁新報社
 編集局報道本部報道部 部長



パネラ-
伊藤 清栄
 仁井田堰土地改良区 事務局長



パネラ-
神部 モモ
 秋田県消費者協会 会長



パネラ-
坂本 茂弘
 六郷町 町長



パネラ-
杉山 秀樹
 秋田県水産振興センター-内水面利用部 部長

共に語るろう！ あきたの 水環境

地球人フォーラム2002



平成14年9月14日(土)
 秋田県児童会館(秋田市)

パネルディスカッション

共に語ろう! あきだの水環境

21世紀は 水資源が最大の課題

穴戸 水は命の源であり、水がなければ生物は生きていけません。国連では21世紀の最大の問題は、水資源の問題だと言っています。まず、パネリストの方々に、水に関わる色々な思いをお聞きしていきたいと思います。

土地改良区の 立場としては

伊藤 私 は土地改良事業に携わっていますが、自分も約1haの田圃を作っております。当土地改良区は、雄物川水系の岩見川の水を河辺町にある頭首工から取水し、秋田市内の仁井田、四ツ小屋を通り、茨島交差点の市街地付近まで末端の水路があります。近年は、農業用水の確保という問題が出ており、市街化区域内を水路が通るので、維持管理の面でも苦慮しています。こうした課題に、地域住民の方々と協力しながら取り組んで行こうと、当土地改良区は考えています。

消費者ができること

神部 消費者として考えることは、どうしたら水を私達の手でできるかということだと思います。昭和48年、湯沢市消費者の会が発

足した時から、動植物で作られる自然で無添加の石鹸を使うように呼びかけています。また、米のどぎ汁などは植木にやり、油物を食べた食器は新聞紙や布で拭き取ってから洗うように呼びかけています。一般的に消費者は、安い物を求めるあまり、企業の競争を求め、一番大切な安全性を企業も、消費者も忘れていていると思います。

「水」をテーマにした 町づくりを

坂本 六郷町は名水100選に認定され、非常に水がきれいだと思いますが、現実はかなり厳しく、清水のすぐそばには汚い川が流れたり、2、30年前から清水も枯渇しているのが実状です。町では、これを回復するため、平成元年に「ふるさと創世事業」の1億円を住民と何に使おうか議論し、清水の整備に使いました。その後、いろいろ手を加えて現在に至っています。これが、住民の意識啓発になったことは確かです。「水」をテーマにした町作りをこれからもやっていきたいと思っています。

水も魚たちも危険な状態

杉山 秋田県の地図に水と関係がある場所を書いてみます。雄物、子吉、米代の3大川。真瀬川や

西目川などの小川。3000を越すため池、湧泉、田んぼの排水路、用水路などを地図に入れると、水の県だとわかる。例えば、仙北・平鹿の扇状地帯の湧水には、世界でここだけに生息している「ハリザッコイバトミヨ雄物型」が住んでいる。ため池では、ゼニタナゴやシナイモツゴなど秋田県が北限である魚が、辛うじて残っています。そこでは、河川のコンクリート化、ほ場整備で湧泉が枯れたり、水路の三面張り、水質汚染などの問題がおきています。ため池では、ブラックバスのような外来魚の問題。そういった意味では危機感を感じている状況です。



ハリザッコ (イバトミヨ雄物型)

Water



写真はイメージです。



宍戸 私の子供の頃は、バケツと網を持って田んぼの用水に魚探りに行って遊んでいました。水と子供達の生活、子供を育てる過程での水の役割で感じることがありましたらお話し下さい。

きれいな川が見られなくなった

神部 私も小さい時はすぐそばの川で泳ぎました。しかし、その川は今は泥川で、触ることもできません。三面張り、蓋をされ、道路を広くするために四面張りという状態で、きれいな川を町で見ることがなくなりました。どうしたらきれいになるのかと思いつながら毎日暮らしております。

教育で

実践していることは？

宍戸 「ふるさとの川を大切にしよう」と子供達に呼びかけていますが、川で遊んだり親しんだことがないのに、大切にしようと言っても無理なのではないかと思ってしまうことがあります。町の教育で実践されていることはありますか。

都市交流で

小学生に意識啓発を

坂本 私の子供の頃の遊び場所は、川や山、野原だった。今、川

や山で遊んでる子供はほとんどいません。教育と水との関係では、気軽に遊びに行ける環境をつくること、生活の中で繋がりを持たせていくことが大切だと思います。今、都市交流を行っていて、筑波市の子供達が毎年六郷町に来て、水の観測をしています。また、東京都大田区の六郷とも交流をしています。どうすれば水がきれいになるか、子供の感覚で議論している。交流を通して子供の意識啓発ということを進めています。

宍戸 良い水を作るためには、良い森や陸地の環境が必要だと言われますが、ハリザッコはどんな様子ですか。

ハリザッコを

子供達に残したい

杉山 ハリザッコを次世代まで残すために何をしたらよいかを、逆に我々が求められています。もっと具体的な調査に、県が乗り出したところですか。例えばハリザッコはどれくらい移動するのか、一生涯水にいるのか、卵はどれくらい産むのか、何を食べているのか、どんな所に巣を作るのか。調査によつて、魚たちが生き延びるためには何をすべきか、答えが出つてあります。

宍戸 水路の維持管理は、農業用水の管理からも大きな問題です。都市近郊での農業活動は、水管理以外にもメリット、デメリットがあると思います。農業活動について、お話を頂きたいと思っています。

地域住民の理解が不可欠

伊藤 維持管理という面ではフリーユーム化、三面化は切実な問題です。また、農家の高齢化、担い手不足などの問題も影響しています。メリットは、大消費地が近く生産物が市場やJAからの直接販売で好評を得ている。デメリットは、新興住宅が農地に隣接しており、兼業農家が増えています。農作業の時間が休日の朝、夕に集中するため、草刈り機械の音がうるさいなどの苦情が多くなっています。今後は、地域住民の理解を得ながら、進めていく必要があると思います。当土地改良区は、今年度から秋田市御野場団地に隣接する排水路を三ヶ年で改修する予定です。その中で、ホタルの水路を復元しようという計画があり、小学校、地域住民の協力を得ながら事業を進めたいと考えています。

ホタルを見て心が洗われた

神部 私の家の後ろは田んぼでした。ところが住宅地になり、川





写真はイメージです。

に蓋をして道路を広くしたいと予算が組まれました。住民は、蓋をすると雪を消すことも出来ない、周辺の畑に水を汲むことも出来ない、ので反対運動をやりました。市を説得するまで20年かかり、とうとう蓋がかかりませんでした。ようやく今年、そんなに多くないのですがホタルが飛んで喜んでおります。ホタルを見て心が洗われた夏を過ごすことができました。

農家と水環境については

宍戸 秋田の自然環境は豊かであると言われますが、豊かであり続けてきた根底に、昔から水に関わって農地の開発や維持、水を管理してきた農家の方々の努力があると思います。

農家が水環境を守ってきた

杉山 豊富な水があつて、農業が成り立つので、相互の関係が保たれてきた。湧水やため池では、水を絶やさないうために地元の農家がいろんな形でやってきたから残っている。今、県内ではいくつかの新しい動きがあります。全国に先駆けて、ほ場整備でトゲウオが住んでる水路を魚のために、三面張りでないものになっています。これは、かなりの事業費がかかるが

それを県で負担することを全国で初めて行っています。また、ため池がブラックバスの被害を受けており、管理している土地改良区で駆除をやるとか、徐々に水との関係が回復し、辛うじてセーフかなと感じています。

Water

共に語ろう!
あきたの水環境



写真はイメージです。

六戸 今年の夏は秋田県内は雨が
多く、農地が水浸しになったり、
市街地での浸水騒ぎが起きました。
雨が続きと水を管理する立場とし
てはいかがでしたか。

市街地優先の雨対策

伊藤 今年の夏は長雨で、集中
的に何十ミリも降ったり、例年と
は違ってました。雨が降ると、農
家も我々土地改良区も「今日はゆ
っくりしましょう」という感じだ
ったが、最近は都市化で、雨が降
るとまず洪水と市街地を流れる用
排水路の心配をします。農業用水
のことより、都市部の水路の方が
1番最初に考えられます。インタ
ーネットや天気予報で大雨警報、
注意報が出ると農業用水を落水し、
市街地での水害に気が使います。
これは都市化の中では避けられな
い現実です。

六戸 六郷町では、清水の維持
管理と町民の意識啓発を進めてい
く事業をされたと伺いましたが、
町づくりで力を入れていきたいも
のがありますか。

21世紀は水の世紀 六郷は水の町

坂本 一つは枯れない清水をつ
くっていききたい。人工涵養をした

り、町の公共施設の配水を地下に
浸透させる工夫をしています。も
う一つは、清水をテーマに観光産
業に力を入れていきます。今の観光
客は、つくられた自然を相手にし
ない。清水をコンクリートで固め
たこともあったが、土の状態に戻
して、観光客に喜ばれています。
「21世紀は水の世紀」とも言われ、
水に関する資料を観光客に提供す
るため「すいもんかん」という資料
館を造った。六郷は水をテーマに
した町づくりをしていこうと思っ
ます。

六戸 昨年、内閣府が水に関わ
る豊かな暮らしについて意識調査
をしました。その中で、水に関わ
る暮らしで何が1番豊かと思うか
という質問に対して、1番多かつ
た答えは「安心して水が飲める暮
らし」、2番目が「いつでも水が豊
富に使える暮らし」でした。農産
物の安全性、新鮮さの面から、都
市近郊など身近な所で農業をして
いる方への要望をお話頂きたい。

環境汚染が心配、 安全な農産物を

神部 川原などでビニールを燃
やしている方々がありますし、不
法投棄により沢水が汚染され、地
下水まで汚染されているのをテレ

ビで見ます。地下水などの環境汚
染を考えると、今、口にする食べ
物はもちろん心配ですが、将来何
十年も経った時がもっと心配です。
農産物は、新鮮さも大事だが、安
全なものをお口にしたいと考えてお
ります。

六戸 水にはいろいろな効用が
ありますが、水と自然環境につい
て、秋田県の現状と今研究してい
ることにどのような関係がありま
すか。

水環境の運命を握ってい るのは、農業である。

杉山 秋田の場合の水需要は、
工業用、飲料用はありますが、過
半は農業用水です。水や自然環境
を考えると、農業活動の中で、水
田、用水路、トゲウオなど自然環
境が存在している。水は農業その
ものであり、農業活動を考えない
限り、魚の今後もないという印象
を持ちました。逆に言うと、最も
水と関わっているのは農業者だか
ら、水生生物からの視点を取り入
れて欲しい。命運を握っているの
は農業を実際にやっている方々な
んだと勉強になりました。





写真はイメージです。

農業の多面的機能に 対する理解が必要

穴戸 農家への要望は、一面では連携して自然環境の維持に努めようという呼びかけであると思えます。農業用水が、地上で利用される水の中では最も多いと話しましたが、今後も農業用水は使われ続け、一定量を確保しなければなりません。その水は、農産物の生産のため以外にも、農村環境の保全や地域の生活用水として利用されたり、防火用水や生態系維持のために使ったり、子供達が水に親しむために確保したりする必要があります。農業を多面的に考えなければならぬのと同様に、私達に身近な「水」も多面的な役割を果たしています。農業水利施設を整備するに当たって、生産性や効率性だけでなく、生態系や自然環境への配慮、自然との関わりなどトータルで考えないといけない。それを皆さんに、また私達も考えないといけないということが、このフォーラムの意義でないかと私は考えております。

今日はパネリストの方々から興味深いお話を頂きました。会場の皆さん、ご静聴ありがとうございました。

Water

共に語ろう！
あきたの水環境



田園空間博物館整備事業

田園空間博物館整備事業は、農林水産省の補助事業で、行政と地域住民が一体となり広域連携をはかりながら、農村地域の「水」と「土」を中心とする地域資源を、歴史的・文化的視点から見直し、伝統的な農業施設や美しい田園空間を一つの博物館とみなし、その保全復元に配慮しながら整備・再生しようと3年前から実施されています。現在、全国各地で約50地区が事業を展開しています。



* 田園空間博物館
 エコミュージアム(ECOMUSEUM)は、1960年代にフランスのジョルジュ・アンリ・リヴェール氏の提唱により生まれた活動です。建物の中に展示する従来の博物館とは異なり、自然景観、水路、博物等のほか、地域の産業や住民の生活そのものまでも含めた有形・無形の地域資源を対象とするもので、内容的には、「地域全体が博物館」という思想に基づいた地域づくり活動です。



秋田県内では白神郷（能代市、二ツ井町、藤里町、八森町、峰浜村）、亀田藩（本荘市、岩城町、大内町）、鳥海山麓（矢島町、東由利町、由利町、鳥海町、仁賀保町、象潟町）の3地区が事業を実施しています。また、事業推進にあたり、あきた田園空間博物館整備地方委員会（委員長・真勢徹秋田県立大学教授）を設置して、広く学識経験者や地域の代表などからの助言・指導を受けています。

【あきた田園空間博物館整備地方委員会】

(委員構成)	9名
常任委員	5名
地方委員	3名
白神郷地区	6名
亀田藩地区	3名
鳥海山麓地区	6名

秋田県のホームページに、県内で実施している田園空間整備事業が掲載されています。
<http://www.plef.akita.jp/fpd/index.html>



プナの森ふれあい伝承館
 白神山地における民俗文化の資料展示、解説コーナーなど、農村文化の体験・学習・伝承する空間の場としてのコア施設



秋田杉野街道の整備
 地区内の見所を観光ルートとして、森の森林鉄道跡を利用し整備。



白神山地の森と水に育まれた共生の文化の保存と伝承

白神郷地区

白神山地は、世界自然遺産に登録されているプナの原生林があり、地域全体がながら「森の博物館」となっています。山麓に位置する各市町村では、この貴重な自然環境や白神に残る伝統文化などを守り伝えるため、自然保護団体・歴史研究会・町内会など、多くの組織や個人で構成された推進協議会を設置、行政と住民が一体となったふるさと空間づくりを展開しています。

「種を継ぐことの家」についてのワークショップと完成イメージ



秋田県 白神郷地区/亀田藩地区/鳥海山麓地区

亀田藩時代の史跡と新田開発により発展した多様な農耕文化の保存と伝承

亀田藩地区

亀田藩地区では東北の厳しい自然や地形条件を克服し、独自の農耕文化や伝統的農業施設を育んできた歴史があります。そして今、この地に残るさまざまな史跡と田舎をさらに魅力的に認知させ、その景観を保全・復元して、豊かな「史跡と田舎の里」づくりを行おうとする田園空間博物館構想が住民・行政が協力して進められています。

- 農村公園施設整備
- 農業施設整備
- 農業地域の景観整備
- 農産物直売場
- コミュニティ施設



出羽伝承館(コア施設)
 歴史と文化の深い町や史跡を展示、各種ワークショップの作成体験を通してふれあえる場とする。



花立遊歩道
 河川沿いの水辺環境と合わせて、プナ林、豊富な水資源、土地改良記念館などを軸に「農業と自然の遊歩道」として整備。

地域住民と行政が一体となって、「野づくりシンポジウム」や「ワークショップ」など様々な活動を行っています。



富田利用のワークショップと、プナ林と水資源の整備・保存。



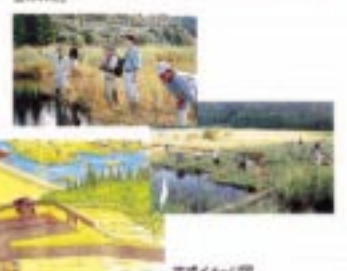
キョウタク・ヒメキョウタクの森
 昔の産木林を保全・保存するとともに公園施設整備として富田公園・水資源・新田・案内板など一体的に整備。



亀田村公園
 横正成山の赤土層深井庄跡の生家を農村公園として整備。農業の発展に貢献した深井氏の功績を伝えるための案内板も設置、交流施設として活用。

加藤農場の整備

植物学的にも珍しいと評価されている「加藤農場」の整備に際して、道内内に生育する希少植物を保護するため、地域住民とボランティアによる草刈りや水辺植物についての現地学習会などのワークショップを開催。同時に、「子供たちのための生きもの学習拠点」としての活用に向け、地元民の協力体制や管理費の問題を大内町基本環境協議会で話し合われた。



田の神・鳥海山の豊かな水に育まれた農村景観と伝統文化の保存と伝承

鳥海山麓地区

「神の鎮まる山」として昔から人々の暮らしに深く関わって鳥海山を有するこの地域は、昔作を祈願した燕菜や獅子舞など数々の神事、若狭が強い晴雨を経て今に伝わっています。別地区ではこれらの行事をはじめ昔き民家や稲田など昔ながらの美しい景観を保全することで健全な農業振興と生活環境づくりを目指しています。



鳥海山麓総合案内所
 案内する中門つくりの学習を促進し、様々な農村の暮らしを体験できる総合案内所として活用。



貴重な農業建築物「中門づくり」

平成
14年度

地球人会議活動状況



運営委員会

1 会議・イベント等の開催

「平成14年度幹事会・運営委員会」の開催

内 容：平成13年度収支決算、平成14年度事業計画等の承認
日 時：平成14年5月22日(水)
場 所：土地連大会議室（秋田市）
参加者：幹事5名、運営委員12名

農作業体験イベント

「みんなで“いも”作り」の開催

内 容：秋田市内から農作業未経験の一般市民及び親子を募集し、さつまいもの苗植えと収穫の農作業を実際に体験。
日 時：平成14年6月15日(土)：苗植え体験
平成14年10月12日(土)：いも掘り体験
場 所：秋田市下新城地区
参加者：約40名

第2回地球人会議シンポジウム

「わが故郷のこころを考える～都市と農村の共生と対流を求めて」
内 容：基調講演、アトラクション、パネルディスカッションなどが行われ、農業と農村のこれからについて意見が交わされた。

日 時：平成14年9月7日(土)
場 所：東京・ニッショーホール
参加者：約700名(本会議から運営委員2名、事務局1名が参加)

「地球人フォーラム2002」の開催

内 容：「共に語ろう！あきたの水環境」をテーマにしたパネルディスカッション、「鳥海水の旅わくわく探訪」の参加者による感想文朗読、お楽しみ抽選会、落語家の三笑亭夢之助さんによる講演など。

日 時：平成14年9月14日(土)
場 所：秋田県児童会館（秋田市）
参加者：約500名



竿燈まつり



2 会員への情報提供

県・土地連等が主催する各種行事に関する情報提供
情報誌等の配布

「新・田舎人」(第32号)を地球人フォーラム2002で配布

会報の発行

「大地の恵み vol.4」を会員に配布（発行予定：平成15年3月下旬）

インターネットを利用した情報提供

URL <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



わくわく探訪



3 他団体が主催する行事との連携

「鳥海 水の旅 わくわく探訪」土地改良施設巡り（後援）

内 容：秋田市内の小学生（保護者）を対象にした土地改良施設の見学。感想文集の発行。

日 時：平成14年7月20日(土)
場 所：西目町、仁賀保町、由利町、大内町等
参加者：70名

秋田竿燈まつり（参加）

内 容：秋田竿燈まつりにおいて、竿燈演技者(土地連職員)及びPR用うちわの配布を行い、まつりに参加。

日 時：平成14年8月3日(土)～6日(火)
場 所：秋田市竿燈大通り
参加者：約40名

「農業農村整備フェア」(共催)

内 容：種苗交換会の協賛行事である「農業農村整備フェア」で、地球人会議の関係資料等を配布。

日 時：平成14年11月1日(金)～7日(木)
場 所：横手平鹿広域交流センター（横手市）
来展者：約1,200名

4 その他

「21世紀土地改良区創造運動」との連携
農業関係者以外の会員募集の強化





汗だくの農作業 大満足の収穫

農作業体験イベント

「みんなで『いも』作り」

地球人会議では、平成14年度事業計画に基づき農作業体験イベント「みんなで『いも』作り」を企画・実施しました。これは、一般市民に自然に触れながら農作業を実際に体験してもらい、農業・農村に対する理解と関心を持ってもらうこと、昨年の「稲作体験」に続いての開催となりました。秋田市内から、ほとんど農作業を経験したことのない40名の市民や親子が参加した農作業体験。今回は、秋田市下新城地区(農地提供者：柏谷勲さん)が「いも」作りの舞台となりました。



苗植え体験

【6月15日(土)：秋(くわ)を手に、みんなで大奮闘】



いよいよ農作業体験イベントの始まりです。今回は、さつまいも作りに挑戦。秋田市内の一般市民や親子40名が参加し、「苗植え体験」に出発しました。現場に到着した参加者は、さっそく農地提供者の柏谷さんらの指導のもと、「うね作り」、「肥料まき」、「苗植え」、「水まき」などの一連の作業を体験しました。

苗植え体験は、約2時間かけて約400本の苗を植えました。特に、鍬(くわ)を使った作業の「うね作り」では、初めて鍬を手にする人や、前日の雨で多少重くなった土にかなり苦労した様子でした。それでも汗だくになりながら、懸命に作業に取り組んでいた姿が印象的でした。





参加者は「うね作りは、鍬を使
ったことがなかったのでも苦
労した。疲れたけど面白かった」、
「久しぶりに気持ち良い汗をかい
た。うね作りは、思ったように出
来なく苦労したけど、秋の収穫が
とても楽しみだ」などの感想を話
していました。

体験終了後は、新城川土地改良
区・京谷事務局長を講師として、
農業水利施設やほ場整備事業の見
学なども行われ、参加者は農業・
農村に対する関心を深めた一日で
した。

いも掘り体験

【10月12日(土)・秋晴れのも
と、大収穫に心地よい汗】



みんなで植えた「さつまいも」が、
収穫の時期を迎えました。いよいよ、
楽しみにしていた「いも掘り体験」
に挑戦です。現地に集合した参加
者は、はじめに農地提供者の柏
谷さんら関係者から、さつまいも
の収穫を実演しながら詳しく説明
してもらい、いよいよ自分たちで
収穫に挑戦となりました。

はじめは慣れない手つきだった
参加者も、次第にコツを掴んでき
た様子でしたが、予想以上に大き
なさつまいもに、悪戦苦闘しなが
ら汗だくになり作業に取り組んで
いました。約2時間かけて500
本以上のさつまいもを収穫しまし
た。

「はじめての体験だったけど、
けっこう上手かった。大きなサ
ツマイモでもとてもビックリした」、
「土を掘り起こすのたいへんだった。
こんなに大きいものが沢山と
れるとは思っていなかったので大
満足です」と感想を話していまし
た。

この日は、農作業には絶好の秋
晴れで、参加者は心地よい汗をか
きながら、土に触れ、作物に触れ、
収穫の喜びを感じながらいも掘り
体験に取り組んでいました。また、
この日収穫したさつまいもは、参
加者で分けられ、各自がそれぞれ
持ち帰っていきました。



県内産直情報

(その3)

県内の産地直売所のご案内
(由利・平鹿・雄勝管内)



おいでよ...鳥海ライン

直売所名	所在地	連絡先	開催日	平常の営業時間	主な取り扱い品
71 JA南内越女性部月曜日	本荘市川口字柴野22	0184-22-4996	通年の月曜日	8:00~8:30	野菜、漬物、菓子
72 JA石沢女性部野菜市	本荘市島田目63	0184-29-2311	4月~12月の月曜日	5:00~15:00	野菜、漬物、菓子
73 JA子吉女性部野菜市	本荘市薬師堂二本木37	0184-22-3766	通年の平日	8:30~17:00	野菜、漬物、菓子
74 本荘青空出前市	本荘市出戸町鶴沼16-2	0184-22-5502	4月~12月の水曜日	14:00~16:00	野菜、漬物、菓子
75 本荘市飛鳥レディ	本荘市字土谷66	0184-22-5773	4月~12月の木曜日	15:00~17:30	野菜、漬物
76 JA秋田しんせい大内町女性部(上川大内)	大内町新田字巻の台94	0184-67-2102	4月~12月	7:30~17:00	野菜、漬物
77 JA秋田しんせい大内町女性部(新緑会)	大内町大倉沢字沖田169	0184-65-3193	年中無休	9:00~18:00	野菜、漬物
78 大内町農産物直売所ひまわり	大内町岩谷町字西越36	0184-65-2205	年中無休	9:00~18:00	野菜の直売
79 上黒川直売所	岩城町上黒川字湯殿澤	0184-72-2975	4月~11月の土曜日	8:30~15:00	野菜の直売、漬物
80 岩城町産直会	岩城町内道川字新鶴湯	0184-73-3808	11月~3月の第4水曜日	9:00~18:00	野菜の直売、漬物
81 青空市友の会	岩城町内道川字八橋前176	0184-73-2655	通年の平日	8:30~17:00	野菜、漬物
82 かもめグループ	西目町出戸字里道44	0184-33-2061			野菜、漬物

おいでよ...鳥海ライン

直売所名	所在地	連絡先	開催日	平常の営業時間	主な取り扱い品
83 JA秋田しんせい東由利町フレッシュ野菜直売所	東由利町法内字上里	0184-69-3204	水・土・日曜日	9:00~17:00	野菜、漬物、菓子、花、果物
84 関加工グループ	象潟町大塩越73-1	0184-43-2608	第3月曜日休み	10:00~18:00	野菜、漬物、菓子、餅
85 JA秋田しんせい上浜女性部	象潟町大須郷字雨谷地26	0184-46-2049	6月~11月	9:00~17:00	野菜、漬物
86 自給の味散歩道	仁賀保町馬場字細久保47	0184-37-2425	水曜日休み	10:00~18:00	野菜、漬物
87 グリーンレディースにかほ	仁賀保町寺田字笹森167	0184-37-2506	通年の月・金曜日	9:00~11:00	野菜、花、花苗、漬物
88 ゴールドフレッシュクラブ	金浦町前川字久根添	0184-38-2944	水曜日休み	9:30~17:30	野菜、花、花苗、漬物
89 川辺100円ランド友の会	矢島町川辺字小坂戸97	0184-55-3105	7月~10月	9:00~12:00	野菜
90 矢島町農林水産物直売所やさい王国	矢島町城内字築館451	0184-55-2560	年中無休	9:00~18:00	野菜、漬物、餅
91 青空グループ	矢島町七日町羽坂	0184-55-4216	5月~11月の金曜日	14:00~16:00	野菜、漬物
92 新上条まごころ直売所	由利町新上条71	0184-53-3348	3月~12月	8:30~10:00	野菜、漬物
93 ゆりっこ直売所	由利町森子字明法下	0184-53-2752	6月~12月の土・日曜日	8:30~13:00	野菜、漬物
94 生産物直売所菜らんど	鳥海町伏見久保146-1	0184-57-3797	月曜日休み	9:00~18:00	野菜、漬物、山菜

味の田舎道

直売所名	所在地	連絡先	開催日	平常の営業時間	主な取り扱い品
139 堺町木曜ふるさと会	横手市境町	0182-36-1078	5月~11月の木曜日	9:00~14:00	野菜、花、漬物
140 グリーンライン	横手市城野岡	0182-36-1124			野菜、花、漬物
141 山内村おはよう市	山内村土淵	0182-53-2571	5月~11月の日曜日	5:30~7:00	野菜、漬物、山菜、焼餅
142 農香庵産直グループ	山内村土淵	0182-53-2225	通年第1・3火曜日休み	9:00~20:00	野菜、山菜、菓子
143 大森町野菜直売所 野菜蔵	大森町字大中島	0182-26-3490	4月~11月の日曜日休み	8:00~18:00	野菜、花、果物、漬物
144 味美会	大森町川西	0182-26-2391			野菜、りんご、しいたけパン
145 みどり会	大森町八木沢	0182-26-6212			学校給食への野菜供給
146 大雄村野菜直売所	大雄村田根森	0182-52-2177	5月~11月の日曜日休み	8:00~17:30	野菜、漬物
147 新平川無人販売所	平鹿町浅舞	0182-24-2252	6月~11月	7:00~12:00	野菜、花、漬物
148 にここ直売所	平鹿町吉田	0182-24-0354	5月下旬~12月下旬	8:00~13:00	野菜、花、果物、漬物
149 JAおものがわ女性部農産物直売所	雄物川町今宿	0182-22-5149	5月~11月の水・土曜日	8:30~10:30	野菜、花等の直売
150 十字の里 安新鮮果	十字町十文字	0182-42-1720	6月~12月(日曜定休)	8:30~12:00	さくらんぼ、もも、ぶどう
151 茶恋士	増田町亀田	0182-45-3510			りんご、野菜、ヨーグルト、漬物

雄勝野の味街道

直売所名	所在地	連絡先	開催日	平常の営業時間	主な取り扱い品
152 アップル会直売所	湯沢市杉沢字々沢112	0183-73-6227	8月~10月中旬毎日	8:00~18:00	りんご、ネクタリン、花、野菜直売
153 果物野菜生産者直売所	湯沢市杉沢新所字砂田	0183-73-3441	8月~10月毎日	8:30~17:00	りんご等季節の果物、野菜
154 三関産地直売所	湯沢市上関字浦町6	0183-79-2330	6月~12月毎日	9:00~18:00	野菜、果物
155 朝採り市場かかし	湯沢市岩崎千年31-1	0183-73-4074	5月~11月(日曜定休)	9:00~15:00	花、野菜、漬物
156 耕心塾	稲川町三梨字上久保60	0183-42-3213	6月~11月の火曜日	11:00~12:30	野菜、果物、漬物
157 JAこまち稲川があちゃん青空市	稲川町川連字高橋107-2	0183-42-3114	6月~10月の火、金曜日	9:00~12:30	野菜、漬物、苗、花
158 皆瀬村特産品開発研究会あぐり館	皆瀬村川向字坂戸102	0183-46-2158	5月~11月の毎日	9:00~16:00	野菜、漬物、菓子
159 ふれあい直売所連絡協議会	羽後町足田字土館69	0183-62-4273	6月~11月の木曜日	9:00~16:00	野菜、漬物
160 JAこまち西馬音内野菜市グループ	羽後町床舞字新処25	0183-62-0337	6月~11月の火曜日	9:00~13:00	野菜、漬物、山菜
161 秋の宮温泉郷朝市会	雄勝町秋ノ宮小淵ヶ沢	0183-55-2627	5月~11月の土、日曜日	6:00~12:00	野菜、漬物
162 雄勝町農業婦人朝市の会	雄勝町小野字飯塚103	0183-52-3612	通年水曜日	8:30~13:00	漬物、野菜
163 道の駅ふるさとマーケット	雄勝町秋の宮小淵が沢	0183-52-2627	4月~11月の火、木、金、土、日曜日	9:00~16:00	野菜、山菜、漬物
164 農家の直売所めぐみ館	雄勝町桑崎字上谷地36	0183-52-2069	6月~10月の毎日	9:00~13:00	野菜、果物、漬物、花





産直所 クローズアップ2



安くて新鮮、地産地消で町おこし

矢島町農林水産物直売所 やさい王国「」矢島町

マップ番号：90

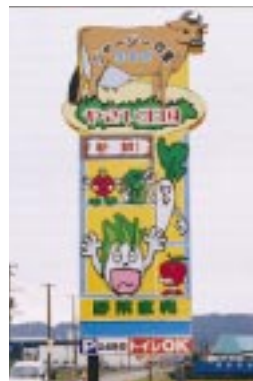
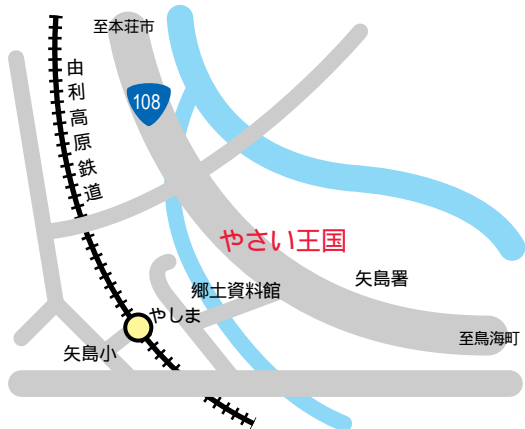
国道108号線を本荘市から南下し矢島町に入って間もなく、右手に「やさい王国」の看板が目に入り、ジャージー牛と野菜たちが迎えてくれる。その一角に直売所「やさい王国」が、建っている。本直売所は平成11年6月13日オープンで、地元農家が集まって設立した矢島町農林水産物直売組合（代表・佐藤和子さん、組合員45名、委託会員15名）が運営を行っている。

「やさい王国」は、新鮮で安全な野菜を主力商品として販売していることと、組合員で話し合っただけで、直売所は年中無休で営業しており、3〜4人の女性組合員が笑顔で対応している。

取り扱い品は、名前のとおり野菜が中心。地元でとれる新鮮で無農薬に近い野菜が並んでいる。しかも、値段は時価の三分の程度で料金となっていて、遠くからわざわざ買いに来る常連客も多くなるようだ。そのほか、無添加の漬物や加工品、手作りのパンやコロッケ、名物の松皮もち、鳥海高原特産ジャージー牛の牛乳やアイスクリームまで盛りだくさんの品揃えである。



売り上げも着実に伸ばしており、農家の収入UP、都市との交流を促進する場所として地元（町）の活性化に大きく貢献している。代表を務める佐藤和子さんは、「地元で採れた新鮮で安全な野菜をたくさん揃えています。安さと新鮮さでは、どこにも負けません。ぜひ足を運んでください」と笑顔で話していた。





産直所 クローズアップ2



鳥海山がくれた大自然の恵で特産品を

生産物直売所「菜らんど」…鳥海町

矢島町から国道108号線を鳥海町へ向かい、役場を過ぎて橋のたもとに観光案内の看板が飛び込んできた。その奥に、落ち着いた大きな建物が2つ並んで建っている。手前が生産物直売所「菜らんど」である。平成7年11月にオープンした本直売所は、町の所有で、運営は地元農家、農業団体などが集まって設立した運営委員会（会長・佐藤秀雄、会員約100名）が行っている。

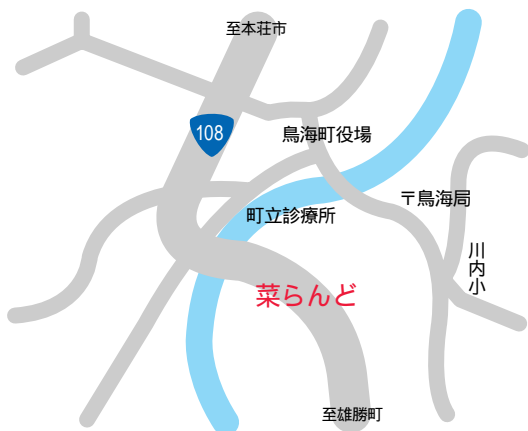
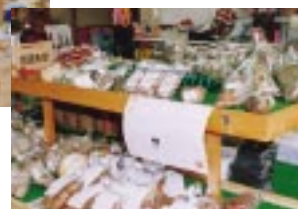
「菜らんど」のネーミングは、一般公募で決定。野菜を中心とした直売所運営を目指していたことから名付けられた。取扱品は、100%地元産の新鮮野菜と果物、鳥海山麓で採れた山菜、キノコ、名産の百宅そば、加工品、民芸品など多種多彩。珍しい所では、薬草、そば八チミツなども陳列されている。

直売所内は見た目以上に広く感じられ、数多くの商品がきれいに陳列されており、品物が選びやすい、買いやすいといった印象を受けた。また、売り上げも毎年確実に伸びてきており、それと同時に運営に携わる会員も、地元農家や主婦など徐々に増えてきている。



本直売所の自慢は、100%地元産の安くて新鮮なものお客様に販売していること。1日約200人程度のお客さんが訪れているそうであるが、対応してくれたお客さんたちは、笑顔で訪れたお客さんを迎えていた。楽しく気軽に買い物ができる場所である。

今後の活動について、運営委員のメンバーは、「珍しい薬草や、そば八チミツなどの商品も扱っているが、鳥海町にしかない特産品を農家の人に作ってもらい、それを『菜らんど』の看板商品としてどんどん売り出していきたい」と意欲的に話していた。



マップ番号 94

土地改良区とは？

どんな団体？

土地改良法によってできた、農家の人たちでつくっている組織です。

日本全国に約7,200地区があり、秋田県内では168土地改良区が活動しています。

(平成14年4月1日現在)

何をしているの？

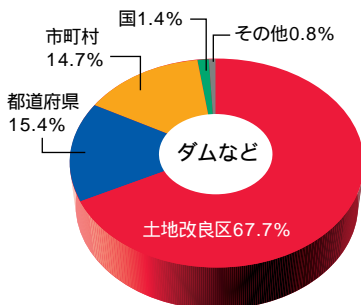
ほ場整備をしたり、農業用ダムやさまざまな水利施設の維持管理を行っています。

農家にとって大切な「水」や「農地」を守り、併せて地域の自然環境を守る大事な役割を果たしています。



全国の土地改良区が管理する農業水利施設の割合

資料：平成10年 構造改善局調べ

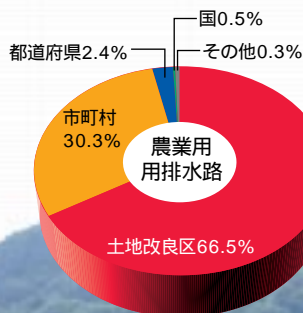


農業水利施設は地域の財産

農業水利施設は、農作物の生産に役立っているだけでなく、水資源のかん養や地域の洪水調整を行っています。また、用排水路は生活排水を受け入れたり、防火用水、消雪水路としても利用されるなど多面的機能を発揮しています。

21世紀の土地改良区！

快適に暮らせる地域にするため、豊かな自然、心安らく田園景観を守り育てながら、地域の皆さんと一緒に、これからの「土地改良区」の役割を考えていきます。



21世紀の土地改良区について考えてみませんか？

「21世紀土地改良区創造運動」とは

農地や農業用水は、食料の安定供給に欠かせない基盤であるとともに、国土の保全や美しい農村景観などの多面的機能を持つ大切な資源であるという意識が国民の間で高まってきています。

土地改良区は、ふるさとの環境を育んでいるこのような資源を大切に守り育てることを通じ、新たな時代にふさわしい豊かで住みよい地域づくりを目指して、行政を始め、地域の人たちの理解と協力を得ながら、積極的に活動していきたいと考えています。



土地改良区の愛称「^みど^り水土里ネット」



土地改良区は、地域に開かれ、より身近に感じてもらえる改良区を目指して、「21世紀土地改良区創造運動」を全国で進めています。その一環として平成13年11月～平成14年3月まで、土地改良区にふさわしい愛称を広く募集し、全国から22,254点の作品が集まりました。応募作品は、「土地改良区の愛称を考える会」で検討を加え、土地改良区などによる全国投票を経て最終決定されました。

地球10周分の水路ネットワーク

土地改良区は、全国の40万kmに及ぶ水路等のネットワークによって農村の健全な水循環を形成し、農地を潤すことにより安全で安心な「食」と「農」の基盤づくりを担うとともに、これが国民共有の財産である美しい農村の基礎ともなっているとの役割を地域及び国民にアピール。

農家、地域住民等のネットワーク

人、物、情報のつながりにより、農家のみならず、地域住民や都市住民と連携(ネットワーク)して、「水」「土」「里」を創造し、都市と農村の共生対流を促進。

資源循環のネットワーク

農村で発生する有機性資源(集落排水汚泥等)の農地への還元など、廃棄物のリサイクルによる資源循環を通じ、循環型社会の構築に取り組む。

(愛称「水土里ネット」の意味)

- 「水」……………農業用水、地域用水など。
- 「土」……………土地、農地、土壌など。
- 「里」……………農村空間。農地や地域住民が一体となった生活空間など。
- 『水土里』……………豊かな自然環境、美しい景観を意味し、おいしい水、きれいな空気など清廉なイメージを表現しています。
- 『水土里ネット』……………右記のような意味合いを含み、将来に向けた土地改良区の役割と姿を表現しています。



あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

【食料】

我が国の食料自給率は40%。もし、輸入農産物がなかったら...。
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

【環境】

「水」「土」「緑」は私たちが生きるために必要です。
今、安全・安心なものはどれですか？

【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ...。
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。
一人ひとりの力が活動の原動力です。
みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- パンフレットや情報誌等の発行
- アンケート調査等による会員との意見交換
- インターネット等を活用した会員との情報交換

(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。



この印刷物は地球にやさしい大豆インキで印刷されております。古紙配合率100%再生紙を使用しています。